

■2011年度 大学入学試験 合格者数

大学	学部等	人数
ソウル大学	社会学科	1
	体育教育学科	1
延世大学	社会学科	1
	外国人グローバル学科	1
漢陽大学	広告広報学科	1
ロンドン芸術大学	London College of Fashion	1
筑波大学	社会・国際学群	1
早稲田大学	国際教養学部	1
国際基督教大学	教養学部	1
立命館アジア太平洋大学	アジア太平洋学部	1
四国学院大学	社会福祉学部	1
東海大学	文学部	1



10年後の自分を想像した進路選択。KISでは生徒一人ひとりに寄り添い、きめ細かい進路指導を徹底します。「越境人」をめざす生徒の夢や目標の実現に向けて親身になって全力でサポート。日本だけでなく、韓国、欧米圏の大学に進学できるチカラを育成するのがKISの強みです。

第1期生9名の卒業生の大学の進学実績は表の通りです。

卒業生(第1期生)メッセージ



KISは好きなだけ
学ぶことができる学校です。
趙歩美 ソウル大学／社会学科

KISは自分の個性と意欲を發揮すれば、好きなだけ学ぶことができる学校です。興味があることや学びたいこと、自分から行動を起こせば、先生方はいつでも惜しみなく手助けをしてくれます。

私は教養・LA授業といった一風変わった授業がとても好きでした。たくさんの経験を持った先達の方々の話を聞くことは、私の価値観や将来の目標を決める上でもとてもためになりました。

将来は、途上国の子どもの貧困問題などの解決に役立つことができるよう、国連などの国際協力機関で働くことができればと思っています。



「初めての場所で生きていける」という自信がついた。
金徳済 ロンドン芸術大学／London College of Fashion

KISには学びたいことを存分に学べる環境があります。僕の場合、英語でした。また、大阪での寮生活、入学直後の韓国研修、カナダ修学旅行、個人的に行ったイギリス、アメリカの大学見学は出身の兵庫県の外へ出ることすらほとんどなかった僕に多くのことを教えてくれました。

「やってみること」の大切さを知り、「初めての場所で生きていける」という自信がつき、留学を決めました。9月からロンドンの大学へ行きます。

将来はデザイナーとしてNIKEやPUMA等の世界的スポーツ用品会社で働きたいです。



KISは多様性を受容する越境人としての視点を育てるところ。
鄭康烈 筑波大学／社会・国際学群

KISでは自発性を持って能動的に行動する姿勢が自分の人生をよりよくするということを学びました。

また、コリア語とともに英語教育にも力を入れているKISでは、国際社会で活躍するためのスキルを身につけることができると同時に、多様性を受容する越境人としての視点を育てることも可能です。

大学に入学し、まったく新しい環境に身を置いて生活する中で、KISで身につけた行動力やコミュニケーション能力が、自分の人生を送る上で大きな助けになっていると実感しています。



「みんな違って、みんないい」ということ。
宋宇蘭 立命館アジア太平洋大学 (APU) アジア太平洋学部

私がKISで一番学んだことは、「みんな違って、みんないい」ということ。KISでは、教育や生活環境によって、各人の「常識」に面白いほどの違いがありました。だから、たった9人のクラスでも「退屈」せずに(笑)過ごせたのだと思います。

全学生の約半数近くが海外からの国際学生であるAPUには、私が暮らす寮のフロアだけでも10カ国からの学生がいます。言語や文化の壁はあるけれど、KISの学びのおかげで毎日英語、コリア語、日本語の3か国語を使いながら充実した生活を送っています。

将来は、「国際関係」「子どもの教育」をキーワードにした仕事に就きたいと思っています。

越境人 特集2

第1回卒業式と第1期生の進路実績

2010年度コリア国際学園第1回卒業式が、2月27日(日)、茨木市立豊川小学校体育館で、卒業生、保護者、来賓の方々など約150名が参加するなか行なわれました。この日の卒業式は、本学園にとってはじめての卒業式であり、9名の卒業生(第1期生)が「越境人」として卒業式に登場しました。

今回の特集では、第1回卒業式と進路実績等についてレポートします。

卒業式の1部では卒業証書授与式が厳粛な雰囲気の中で行われました。卒業生と在校生が対面する形の会場で、卒業生は厳密な校長から卒業証書を授与されました。校長は、式辞の中で「越境人へのパスポートを手にしていますか」と語りかけながら、「越境人はトラブルメーカーではなく、ピースメーカーにならなければなりません」と強調しました。そして、「利益や常識的な生き方だけではなく、搖るぎない正義感と必ず平和をもたらすという越境人としての自覚をもつて、生きていくことを願っている」と語りました。

続いて、来賓の方々を代表して京都造形芸術大学の徳山詳直理事長と大阪府議会議員の森みどり議員が、9名の卒業生を前にして祝辞を述べました。徳山理事長は、卒業後に試練の連続が待っている、と述べた後、朝鮮戦争時の自らの体験を述べながら、南北コリアの統一と東アジアの和平に貢献できる人材になるように期待する、と力強く励ました。また、4月のKISの学校法人取得後にはKISと京都造形芸術大学が「姉妹関係」を結ぶようにしようと、語りかけました。

その後、4名の卒業生への成績優秀賞、皆勤賞、功労賞の各種表彰が、文弘宣理事長より行なわれました。高等部2年の2部では、KIS学生会が主催し、卒業パーティ(発表会)が行なわれました。軽音楽部の演奏後、辻元清美衆議院議員がお祝いのスピーチに立ちました。その後、卒業生9名一人ひとりの幼い頃からの成長過程の写真が映し出される中、卒業生らは3年間の学びや今後の抱負、先生や両親への感謝などについてスピーチしました。涙を流しながら話す卒業生の姿が印象的でした。

在校生の合唱に続いて、卒業生から感謝の気持ちを込めて、先生方と自分の保護者へ小さな花束を渡すセレモニーも



学生会主催の涙の卒業パーティー



卒業証書授与式

邊慧利さんが在校生を代表して送辞を述べました。卒業生を代表して今庄貴博君が答辭を述べました。

行なわれました。会場のあちこちで、涙を流したり、抱き合った姿が見られました。最後には、第1期卒業生が作詞した「奇跡の学校」という歌を合唱して、卒業式の幕を閉じました。9名の卒業生は、KIS音楽教員の裴眞珠先生が作曲した「奇跡の学校」という歌を合唱して、卒業式に参加した一人ひとりが噓みしめた卒業式でした。



Profile

うばがい・ひでたか ●1951年9月生まれ。兵庫県神戸市出身。読売サッカーチームで選手としてプレー後、西ドイツのケルン体育大学に留学。帰国後、母校大阪体育大学コーチを経て、95年にジェフ市原(現千葉)の育成部長に就任。97~2006年まで統括本部長(GM)を務めた。その後、フランス・グルノーブルフット38ではGMとして45年ぶりの1部昇格に導くなど辣腕を発揮。03年にはイビチャ・オシム氏を日本代表監督に招聘した。10年12月、京都サンガFCのGMに就任。

て何をやらなければならないかがあり、そして各自の役割がある。人を信頼するのは言葉で言うのは易しい。状況が悪くなつた時に、その人を信頼していけるかが、とても大事で難しいところ。

— チームワークや信頼関係を築いていく上で大切なことは何ですか。

理想は大切であるが、現実は必ずしもそうではない。私の性格はプロのサッカーには向いていない(笑)。17年間、この仕事をしているが人をだまさなければならぬ。綺麗な世界ではない。選手を「売り買い」しなければならない。人のために尽くす生き方を持たなければならぬが、現実社会はそう簡単ではない。夢を追うだけで、足元をすくわれること

はしてほしくない。私は、たくさん人にだまされ続けた。自分はだまされてもいいよ、と思ってきたから。私はこれまで、人と誠実に対してきたし、これからもうしたい。でも、その中で裏切られてきたし、一方それも世の中にあると分かることにはいけない。理想を持ちながらも、社会に出ればいろんなことにも注意していかなければならない。

信頼関係を築くための私の基本スタンスは、直接その人に物を言えるかどうかを大切にするということだ。自分の意見が第三者を通じて間接的に相手の耳に入ればどのように受け止められるか。そういう雰囲気から、いいものは出でこない。信頼関係を築くには、コミュニケーションが大事。自分が感じたことを素直に言い合える環境や雰囲気がないといけない。

— 祖母井さんは、サッカーを辞めたいと思つたことはありますか。

もう今、かかわりたくない(一同爆笑)。世の中は、効率やスピードを重視するが、「待つ文化」が重要だと思う。「待つ文化」とは自然に触れることだ。植物に触れるとか、何ものを作るとか、人間のリズムではなくて自然のリズムだ。待たなければならない。本当は、このことを若者たちに伝えたい。

フランスのグルノーブルにいた時は、毎日時間がすると標高1700メートルほど山を登っていた。山は一歩が危ない。死ぬこともある。一歩一歩を意識しなければならない。これは今までなかつた体験だった。

子どもの家庭教師をしているイタリア人に、ある時畑に誘われた。キュウリやナスだけの畑ではなく、いろいろな作物がごちゃ混ぜになっていた。タマネギの横にイチゴがあつた(笑)。でも適当にしているわけではなかった。イチゴに集まる害虫をタマネギが駆除する働きがあるとか。自然のサイクルを壊さずに生活する方法。もう一つの生き方も視野にあるから僕は耐えられると思う。今日、皆さんからも勇気をもらつた。

特別授業 京都サンガFC ゼネラルマネージャー 祖母井秀隆さん

文化、歴史を越えた組織形成

— サッカーチームはどうやって言語や文化、歴史を乗り越えて組織を作るのか —

日本のプロサッカーチームJ2に所属する京都サンガFCの祖母井ゼネラルマネージャー(GM)。日本、フランスでGMとして辣腕を發揮するなど、華々しいサッカー経験をする。その祖母井さんが、5月28日、特別授業(体験学習)の講師としてKISの教壇に立つた。

生徒と対等な目線に立つて、驚くほど素直に自分の人生や思いを語りかける。祖母井さんのソフトな語り口と醸し出す寛容な雰囲気は、その経験から想像していた強面のイメージを一変させた。授業終了後も、祖母井さんの周りに生徒たちの輪ができた。ここでは生徒との質疑応答を中心に、その様子を紹介する。

(文責:「越境人」編集部)

— 仕事をする上で、困難な場面に遭うと思いますが、その時、祖母井さんを助けてくれた人は誰ですか。

私が子どものころ、母親は長らく結核で入院して、父も散髪屋で仕事をしていたから、祖母にとてもお世話になった。中学時代は目立たず、体育の成績は1位でした。学校、先生や大人に対しても不信感を抱いていた時期があった。誰からも認められなかつた。唯一、認めてくれたのが祖母だつた。

私がドイツにいた時に、練習時に子どもたちを黙つて見ていると、子どもたちが大きな声で「コーチ・ビデ(私のこと)、なんか言ってよ」と言う。ドイツ人は感情を表に出す国民性です。僕は何も指示を出さなかつたから子どもたちは分からなかつたのです。体中で怒りを思いつきり出すと、やつと分かる。日本でそれをやれば、びっくりするよね。

ドイツでは日本的な感情表現で生きていけなかつた。例えば、朝パン屋さんの前に並んでいると、肘を張りながらおばちゃんが割りこむ。フランスは違う。「ボンジュール」とか言いながらコミュニケーションが取りやすい。あなたが人とコミュニケーションをどのようにとつていくしかない。自分のものを作つていくことが、すごく大事だと思う。喜び、悲しみ、苦しみの中から自分の生き方を見つけていくほかはない。答えはない。

— 自分のチームを作つていく時に、特に留意した点はどこですか。

(ホワイトボードにサッカーのポジションを書きながら) ここはゴールキーパー。役割は相手側に点を入れさせなすこと。各ポジションには役割がある。「GKが点を取られたから、今度はFWのオレがGKをやる」と言えば、どうなるか。チームはバラバラになる。各ポジションにいる11人には、それぞれの役割があり、その上で11人全員がまとまって攻撃し、また防御する。チーム全体とし

か。出さない方がいいですか。

あるとき手相を見ながら祖母が「あなたは天下を取るよ」と言った(笑)。学校の成績も普通より下だが、その言葉を信じた。祖母はいつもネガティブではなくて、ポジティブな言葉をかけてくれた。それに勇気づけられた。だから僕の名前は祖母なんです。だからグランドマザー、GMなんです(一同笑)。





するテーマを1つずつ、1人2つのテーマなので、慣れない学校生活と並行して行なうのは、かなりハードでした。大変苦労しなければならないので、それぞれ「韓国文化研究」「韓国社会研究」という名称で正規科目として設置し、各1単位を付与していくます。

自主研究といつても、十分調査を行なうことができるよう事前事後の指導は欠かせません。調査というものが初めて挑戦する生徒がほとんどだったので、質問票作成法など調査方法の基礎からテーマに即した個別指導まで、手取り足取りの指導が必要でした。何をテーマにするかから生徒は悩むものです。やつとゴールを決めたとなると、今度はどのようにそのゴールを目指すか、方法が問題になります。

基礎文献を読みこなす。仮説を立てる。アンケート項目を作る。現地で調査を始める。日誌を書いて、進捗を確認する。日本に戻って、集めたアンケートを吟味する。筋書きを書く。写真や図表なども使いながら研究結果をレポートにまとめる。レポートを修正する。プレゼンテーション用のパワーポイント資料を作る。全生徒と保護者の前で発表する。レポート集を印刷製作する。この各段階で、生徒と教師の二人三脚の協調が必要です。

大変といえば本当に大変な作業ですが、生徒はこの難関を経て、大きく成

研修成果の発表、小さな満足感

5月21日、この日は授業参観日で大勢の保護者の前で、今回の研修の成果を発表します。前日、リハーサルをしたお陰か、それほど緊張することもなく、堂々とやつてのけました。発表を見終えてほつとした顔に小さい満足感が見てとれました。

正直、出来具合はいろいろでした。自分の目と足で得た情報を、より客観的な統計と見比べながら、それなりの体系性を持たせた発表もあれば、最後までレポートをまとめ切れないので何が言いたいのかわからないような発表もありました。教師としてどこまで介入すればいいのか悩みもありましたが、それが今の到達点、持っている力なのだから、それでいいのです。

「いろんな状況をもっと細かく考えておくべきでした」「面接法を使っていれば後続質問もできたはずです」「統計の見方がわかった」「論理的にまとめなさいと言われたので、一晩ネット検索をしたけどわからなかつた。先生、論理的って何ですか」「わ

長します。「調査する」「まとめる」「発表する」の各段階を具体的に経験し、各々の場面で、持っている知的能力と実践的能力のすべてが試され、「生きる力」という総合的学力に結びつきます。

研修成果の発表、小さな満足感

A group of nine people, including students and staff, are standing in front of a large mural of a person wearing a graduation cap and gown. They are all smiling and making peace signs with their hands.

KIS生徒、3週間の韓国短期研修に参加



3月14日、大阪港国際フェリーターミナルから釜山へ向け出発。いよいよ3週間日程の韓国短期研修です。生徒は7名。目的地は2か所で、京畿道安山(5名)と慶尚北道店村(2名)です。

安山組は、韓国一外国人住民の多いこの町で、現地の中学校と高校に「普通に」通学しながら、地域の市民団体「安山移住民センター」の協力を得て、多文化共生というテーマでさまざまな体験をしました。

店舗組も「美しい教会」を前進基地にして、現地の中学校に通いながら、韓国の古い情の文化が残るこの小都市で農村体験をしました。ここでは、韓国短期研修についてレポートします。

中級レベルの語学実力を参加条件としていますが、授業にも「まあまあ」についていけたし、たくさんの韓国生徒と友達になつて自然な会話を繰り返して、コリア語の習得にも大きな発展がありました。

店主中学に行つた生徒は、「ちょっと遅刻したり、居眠りでもすれば、先生が棒で容赦なく叩きます。日本ではまずないですね」とカルチャーショックも受けたようです。韓国でも姿を消したはずの「愛の鞭」文化ですが、地方の小都市ではまだまだ健在だったようですね。とはいって、先生たちや生徒たちもとても親切で優しかったといいます。先生と生徒の距離がとても近いわけです。厳しく叱る時は叱るけれど、抱き合つて戯れるわけですから、K I S に似ているともいえます。

「韓国の生徒はほぼ全員、夢をもつていました。自分にはそれがないのです。羨ましかったのです。夢に向かってどう

「日本に帰りたくない」
K-1の生徒が読出

韓国の先生たちは、週末は車を出して近所の名勝に案内してくれたり、格別な心遣いを示してくださいました。また、一週間程度のホームステーも紹介していただき、韓国の家庭生活も楽しむことができました。韓国体験といつても、観光とか短期間の滞在や交流が中心だった生徒たちは、「朝起きて学校に行く」「帰宅して予習と復習をする」という具合で、まさに溶け込んで生活するという感覚で過ごすことができました。この骨折る仕事を快く引き受けさせていただいた安山市教育庁の教育長、元谷中学、元谷高校、店舗中学校の校長先生以下、各先生方には本当に頭が下がります。

たし、グラフが描けません」「へえ、そんな解釈も成り立つのですね」といった、たくさんの後悔や気づきがありました。この後悔や気づきこそが成長の証しです。

A group of nine students from the Class of 2013 are posing together in front of a colorful mural. The mural features a large bird, possibly a peacock, with its feathers spread wide, and the Chinese characters '和平' (Peace) written in a stylized font. The students are dressed in various casual and semi-formal attire, including jackets, shirts, and ties. They are smiling and some are making peace signs with their hands.

を置いたのは、実は自主研究です。生徒たちは、学校生活とは別に、放課後や週末を利用して、地域団体において、または生徒が自主的に設定した課題において、調査と研究に取り組み、本校の建学の精神と教育理念の体得をはかつてもらいました。

生徒が選んだ研究テーマには「韓国の田舎文化」「韓日生徒の学習習慣比較」「韓国生徒の未来目標」「在日同胞のイメージ調査」「移住民センターの外国人の子どもたちの韓国をどう見ているのか」「韓国生徒の南北コリア認識」「韓国生徒の好きな音楽」「韓国の外国人労働者の意識調査」「K-POP研究」などがあります。

学校で調査するテーマと地域で調査

韓国でのハードな自主研究活動

| 指接 4 2011 SUMMER

KIS韓国生徒、春季日本研修旅行に参加

今年4月韓国からKISに入学した8名の韓国生徒を対象にした春季日本研修が、連休中の5月1日（日）～3日（火）の2泊3日、京都市内で実施されました。今回の日本研修は、①京都における日本とコリアの歴史的・文化的なつながりを学ぶこと、②日本の大学を見学し、将来的進路選択に向けた関心を高めること、③韓国生徒間の交流と親睦をはかること、を目的に実施されました。

金正泰教頭先生に引率された8名の韓国学生は、初日には京都市内の洛東地域にある耳塚、清水寺、八坂神社などを散策しました。2日目は、嵐山や広隆寺を訪問した後、NPO法人京都コリアン生活センターエルファを訪れ、在日コリアン1世の高齢者との交流を行いました。その後、立命館大学のキャンパスを訪問して、大学内のコリア研究センターに集まる大学生にとつては、連休明けのKISでの学園生活に向けて懇談を行いました。韓国学生にとっては、連休明けのリフレッシュした研修旅行となつたようです。



2011年度KIS学生会の選挙を実施

2011年度のKIS学生会の役員選挙が、5月7日（土）、行なされました。KISは生徒の自主性を尊重した校風であるため、学園生活に占める学生会の役割は大きなものがあります。この日行われた学生会の役員選挙では全生徒が集まる中、10名の役員候補の立会演説会が行なわれました。その後各人の投票が行われました。

学生会の会長、副会長、書記、会計の立候補者が、立候補の動機や今後の抱負、また自分のセールスポイントをしつかりと自分の言葉で語りかけていた姿が印象的でした。韓国学生の中等部3年の姜大旭君も中等部副会長に立候補し、堂々と自らの抱負を語っていました。

「学生会の先輩たちが、これまで一生懸命に後輩をまとめている姿にあこがれて、自分も立候補しようと思った」、「KISは、まだ多くの人に知られていないが、素晴らしい学校だと感じている。自分が学生会で活動することで、KISをもっと伝えたい」、「日本在住の学生と韓国からの留学生との間で、さまざまな違いや葛藤があるだろう。双方の意見に耳を傾けて相互理解を深めながら、良い関係を作つてみんなが誇れる学校を作つていただきたい」など。

さわやかに自分の主張を語る生徒がいる一方で、その主張を真剣に聴きながら、演説後に笑顔で拍手する生徒たち。民主主義の「ひな型」を見るようでもあり、開校4年目のKISに自由闊達な校風が、確実に根づき始めていることを実感させる演説会でした。



第4回コリア国際学園入学式を開催

式典では、金時鐘学園長の開会辞に先立ち、東日本大震災で被災した方々に対して全員で黙祷を捧げました。その後、来賓として京都造形芸術大学の徳山詳直理事長と財団法人箕面国際交流協会の岩城あすか事務局長から、心温まる祝辞をいただきました。

厳俊校長が一人ひとり新入生らの名前を呼び紹介したのに続き、新入生を代表して中等部1年生の池村尚哉君と、韓国からKISに入学した高等部1年生の裴彩原さんが「越境人になるよう最善の努力をする」との宣誓を行いました。

厳俊校長は、あいさつを通じて「夢見る人になつていただきたい。夢のある人となつて天と地の違いがあります。今後、社会に出てどのように羽ばたいていくか、夢を持っている人は目標が明確です。」コリア国際学園での時間は、夢を探し、夢を育てる時間になるでしょう」「第二に、平和をもたらす人にならなければなりません。平和をもたらす人は、人を尊重す



KIS生徒、春の遠足に行く



るが故に人からも尊重を受けます。絶望の中でも希望の種を見つける人がいます。怒るよりもいつも笑い、長らく忍耐する人です。人の過ちを指摘するよりも自分の過ちを進んで認める人です。先生を尊敬し、学友を愛して、みんなから尊敬され、愛される人になることを願います」と述べました。

式典の終了後、新入生と保護者らは、全体での記念撮影、オリエンテーションに臨みました。その後、新入生らは校医の鄭龍寿先生から健康診断を受けたなど、慌ただしい一日を過ごしましたが、友だともすぐに打ち解けた様子でした。今年度KIS全体の生徒数も増えるなかで、新入生らの一人ひとりの学び、心身の成長に向けて教職員も全力でサポートしていく決意を新たにした日でもありました。

4月28日（木）、毎年恒例の春の遠足が行われました。中等部は、JR山崎駅に集合して、摺津峡に向かい、川べりで焼肉バーベキューを楽しみました。少し肌寒い陽気でしたが、生徒たちは元気に川に入るなど、大自然を満喫していました。高等部もこの日、大阪市内の淀川河川敷公園に行き、楽しい一日を過ごしました。

4月28日（木）、毎年恒例の春の遠足が行われました。中等部は、JR山